

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社 ささえ	代表者	笠嶋 信夫	法人・事業所の特徴	中心となるデイサービスは、一人一人の状態に合わせた柔軟なサービス提供しています。突然の宿泊にも対応、訪問サービスでは通いの場のなじみの関係ができています。スタッフが自宅へ訪問いたします。
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 ささえ	管理者	鮎川 律子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	人	人	1人	人	13人	人	16人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	外部研修に積極的に参加していき、職員会議などで職員に情報共有していきスキルアップに努める。勉強会を継続して行う。研修やイベントへの参加に努める	改善計画に対して取り組むことが出来ているが、日々の業務に生かすまではできていない。	職員の入れ替わりもあり、意識付けがまだ必要なのでは。意見は統一していくのは難しいが、少しずつ反映している部分があるのでは？	外部研修などに学んだことを日常の業務に生かすような工夫をする。
B. 事業所のしつらえ・環境	外部・内部研修通して、職員に言葉遣いなどの接遇面や認知症の対応など研修をして環境づくりに繋げていく。利用者様にとって過ごしやすい環境とは何かを考えて日々の業務につなげる。	フロア的环境整備を実施。ミーティングでの情報共有にも努める。	職員の対応や入れ替わりになどによっても環境が変わっていくのでは？	職員の接遇面や認知症の対応など研修をして学んだこと日々の業務に生かし、利用者様にとって過ごしやすい環境作りに努める。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の方々が立ち寄れるような事業所を目指す。	地域の盆踊りの参加 児童会館の子ども達との交流 ボランティアの方に来てもらい、演奏していただく。 夏祭りを実施。	地域の方にまだ知られていないのでは？ 地域のイベントなどにも出来るだけ参加していると思う。でも、来年はもっと参加してほしい。	地域の方々が立ち寄れるような事業所とはどのようなものなのか事業所として考えて運営していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・買い物など利用者様と一緒にいくなど工夫して外出の機会を増やしていく。 ・外出イベントを事前に計画してできるだけ多くの利用者様が参加できるようにしていく。 ・外出行事の質・量の向上に努める。	外食レクを実施。(6月・10月) 地域のイベントにも参加	外出するのは、生活の意欲向上となっているのでは。買い物などもいつかはどうか。	・買い物など利用者様と一緒にいくなど工夫して外出の機会を増やしていく。 ・外出イベントを事前に計画してできるだけ多くの利用者様が参加できるようにしていく。 ・外出行事の質・量の向上に努める。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議に職員が参加できるようにシフト調整などを行い、地域の方々や包括支援センターの方と職員が直接意見交換できるような運営推進会議を目指していく。	運営推進会議を通して意見などを頂き、検討・実施に努めた。シフト調整をし、介護職員も参加するように努めた。	介護職員が参加できているが職員が固定されている。いろんな職員が参加してもいいのでは。	運営推進会議でもっと地域の方々の意見が反映できるような事業所運営を目指す。
F. 事業所の防災・災害対策	・水害時の訓練も計画し避難訓練に浸水を想定した訓練を実施。 防災時のマニュアルをもう一度見直して作成。職員に職員会議など通して周知させる。	運営推進会議に合わせて避難訓練を実施。職員が研修に参加した。	・9月に地震があり、非常時の対応をもう一度確認する機会をつくってみたらどうか。	・水害時の訓練も計画し避難訓練に浸水を想定した訓練を実施。 防災時のマニュアルをもう一度見直して作成。職員に職員会議など通して周知させる。